

令和6年度の基本方針(事業計画)と自己点検・自己評価と外部評価について

重 点 目 標	関連する評価指標		令和6年度 目 標 値	令和6年度 実 績 値	達成率	自己点検・自己評価	外部評価
	基本的 運営方針	評価項目					
1 地域の情報拠点としての情報資源整備 (1) 蔵書構成の再検討や中長期的な収集方針に基づく資料選定を行うとともに、県民の多様なニーズに対応する資料の収集、適切な資料管理と保存環境の改善を進める。 (2) 山梨県図書館情報システムを活用し、デジタル化資料の充実と利用促進を図るとともに、Webサービス等を活用した情報提供に取り組む。	I	(2)貸出	371,732点	344,057点	92.6%	・収集基本方針に基づいた資料収集に取り組み、概ね目標値に達することができた。引き続き、多様化する利用者ニーズと課題別、対象別サービスの充実につながる重点収集分野を設定し、図書館サービスを支える資料収集を目指したい。また、物価高騰の影響により、書籍価格が上昇傾向にあり、購入冊数への影響が危惧されることから、計画的な資料収集に努めたい。	・資料収集は、所蔵資料・地域資料寄贈受入・子ども支援センター資料・課題解決資料において、概ね目標値を達成しており、県民の幅広いニーズに応えるための取り組みを進めている。また、利用者アンケートでは約80%が「蔵書が充実している」と回答しており、収集基本方針に沿った適切な選書が成果を上げている。 ・さらに、市町村立図書館では収集困難な専門領域の分野において、基本的な資料を適切に収集しており、相互貸借を通じて地域の学びを広げし、教育や研究など大いに成果をあげている。限られた予算の中で、網羅的に収集することは難しいと思うが、今後も適切に精査しつつ資料の充実を図っていただきたい。 ・一方で、同アンケートにおいては、「専門書」や「新着図書」の不足も指摘されていることから、限られた予算のもとでも、専門性の高い資料の充実と量的な蔵書の拡充だけでなく、質的な要望への対応が今後の課題といえる。 ・今年度も、多言語資料や地域資料の収集、さらにデジタルアーカイブの拡充など、幅広い取り組みが行われ、基盤整備が着実に進んだ。引き続き、デジタル化資料の充実とWebサービスの拡充を進め、遠隔地や時間的制約のある利用者もアクセスしやすい環境を整備することが望まれる。 ・ウェブ会議システムを利用した講演会などは今後も利用が拡大していくと考えられることから、引き続きの取り組みを期待する。
		(3)相互貸借	6,428点	5,628点	87.6%		
		(4)所蔵資料	1,058,288点	1,060,189点	100.2%		
	II	(7)地域資料寄贈受入	1,100点	1,224点	111.3%		
		(9)ホームページアクセス	254,100件	244,569件	96.2%		
	III	(13)多言語資料所蔵数	10,112点	10,114点	100.0%		
		(16)主催研修参加者	705人	753人	106.8%		
	IV	(17)子ども読書支援センター資料	3,325点	3,012点	90.6%		
		(18)課題解決資料	2,765点	2,520点	91.1%		
		(23)地域資料	102,043点	101,636点	99.6%		
	VI	(24)デジタルアーカイブ作成	3,000枚	3,135枚	104.5%		
2 レファレンス・サービス及び障害者サービスの充実・周知と中高生の利用促進 (1) 県民が図書館の資源を有効に活用し、知識や情報を得るためのレファレンス・サービスや、図書館資料の利用に障害のある方へのサービスを充実させ、周知する。 (2) 中高生との協働や学校への情報提供により、中高生の読書活動の推進と図書館の利用促進を図る。	I	(1)入館者	645,000人	683,423人	106.0%	・入館者の目標値は上回ったが、コロナ禍後の利用制限緩和を受けて大幅に増加した前年に比べると減少した。行動制限が終了して約2年が経過し、人々の行動範囲の変化が少なからず影響していると思われる。また、個人貸出数は目標値に届かなかったが、若干増加した団体貸出数から、団体貸出を通じて間接的に一定の非来館者にも資料が活用されていると推察する。	・地域レファレンスの提供、SNSの活用、校外学習での図書館利用など、特定のターゲット層を意識した取り組みにおいては、目標を上回る成果が得られており、高く評価できる。 ・入館者数も増加傾向にあるものの、貸出や相互貸借の実績が目標に達していないことから、来館者の資料利用を促進するための更なる工夫が求められる。 ・利用者アンケートでは、レファレンスサービスを受けた人の約95%が「満足」と回答する一方で、約半数が、レファレンスサービスを「知らない」と答えており、認知度には課題がある。 ・対面によるサービスは、ネット世代にとっては心理的ハードルが高く、気軽に利用しづらい傾向が見られることから、ニーズ分析を踏まえたレファレンスサービスの周知と活用を広めるための効果的な対応が期待される。 ・デジタルサービスの充実は、利用者の利便性向上やアクセス拡大につながる重要な取り組みである。今後もSNSやウェブサイトを活用しながら、図書館利用者に向けて、図書館の魅力やサービスを積極的に発信していただきたい。 ・生成AIの活用が広がる中で、若い世代に図書館の魅力や資料に触れる体験をしてもらうためにも、学校との連携は大切な取り組みであり、探究活動支援をはじめ、中高生向けのプロジェクトや学校支援セットの充実は、中高生の読書意欲を高める取り組みとして評価したい。
		(2)貸出	371,732点	344,057点	92.6%		
		(3)相互貸借	6,428点	5,628点	87.6%		
	III	(9)ホームページアクセス	254,100件	244,569件	96.2%		
		(10)メディア掲載等	329件	285件	86.6%		
		(11)校外学習利用	113件	124件	109.7%		
		(12)SNS活用件数	1,720人	1,921人	111.7%		
	IV	(14)調査相談	445件	354件	79.6%		
		(15)講師派遣	17人	16人	94.1%		
		(17)子ども読書支援センター資料	3,325点	3,012点	90.6%		
		(18)課題解決資料受入数	2,765点	2,520点	91.1%		
	VI	(25)地域レファレンス件数	724件	855件	118.1%		
3 図書館利用団体等との連携等による図書館の利用促進 (1) 外部の関係団体や図書館利用団体等との連携について、新たな取り組みの可能性を探り、県民の課題解決や生活に必要な情報を提供する図書館として機能拡大を図る。 (2) 交流事業・イベント等と連携した資料展示の実施など、図書館で活動する様々な団体と連携し、図書館の利用促進を図る。	I	(1)入館者	645,000人	683,423人	106.0%	・事業参加者数は、前年と比較し大幅増となった令和5年度の数値をさらに上回り、目標値に対する達成率は148%であった。要因としては、指定管理者自主事業に多くの参加があったこと、「おんがくかいぶらり」をはじめとする定員の規模が大きいイベントへの参加者数が安定していたことなどが考えられる。参加者数には含まれていないが、新たに「館長連続講座」のアーカイブ配信を開始した。114名の登録があったことから、今後も継続していきたい。	・図書館利用団体との連携による利用促進は、企画展示やイベントなどを通じて継続的な参加が見られ、図書館の魅力を広げる意義ある取り組みとなっている。地域社会に多様な学びの機会を提供することは、従来の利用者に加えて新たな利用者層への広がりにもつながる可能性があり、今後も団体との協働を通じて、図書館の利用をさらに促すような場の充実が期待される。 ・入館者、企画事業参加者、交流エリア利用・稼働、連携企画事業対象団体数が、目標を上回っている。県の中心部に立地し「にぎわいの創出」という目標に沿う県立図書館に期待される役割が果たされているといえる。 ・交流エリアや企画事業などの活用により、図書館が県民の交流と学びの場として機能している成果が見られる一方で、参加者の資料利用への結びつきには課題があり、今後は交流と資料利用の相乗効果を高める工夫が求められる。 ・館長連続講座のアーカイブ配信は、図書館の新たな発信の仕方として評価できる取り組みである。今後もぜひ発展させていただきたい。
		(2)貸出	371,732点	344,057点	92.6%		
	II	(5)図書館協力員活動	1,968回	1,678回	85.3%		
		(6)企画事業参加者	9,281人	13,787人	148.6%		
		(8)やまなし読書活動促進事業	4,733件	4,422件	93.4%		
	III	(9)ホームページアクセス	254,100件	244,569件	96.2%		
		(10)メディア掲載等	329件	285件	86.6%		
		(17)子ども読書支援センター資料	3,325点	3,012点	90.6%		
	IV	(18)課題解決資料受入	2,765点	2,520点	91.1%		
		(19)交流エリア利用	93,680人	100,233人	107.0%		
		(20)交流エリア稼働	71.4%	80.0%	112.0%		
	V	(22)連携企画対象団体	85件	91件	107.1%		